



調査-企画展で身近なごみ問題を自分ごと化！

長崎県の中央に位置し、漁業も盛んに行われている大村湾であるが、地理的な特徴（閉鎖性海域）や、海洋ごみ・水質の問題についてはまだまだあまり知られていない。ごみ問題を含む、環境悪化が原因で漁業にも影響が多く出ている。まずはそういった問題を県民に知ってもらい、行動変容に繋げるために大村湾の海洋ごみ（浮遊ごみ）調査を行い、長崎市科学館で企画展を実施した。また、県全域に店舗を展開する大型チェーン店と連携して、CFB長崎とのタッチポイントを多くつくった。商品トレーは紙を使用しており、消費者に海洋ごみ（プラスチック）問題を身近にとらえてもらうきっかけを作った。子どもから大人まで届く企画を年間を通して行った。

2023年度 実施状況について

その他事業：スポGOMI、拾い箱事業

セブン-イレブン商品コラボ



概要 セブン-イレブン長崎全店舗でCFBコラボ商品「ちゃんぽん焼めし・鮭わかめ」を販売。

目的 大手小売チェーンとのコラボで、県内に広くCFBを訴求。海ごみゼロウィークに期間と合わせて販売し、行動変容に繋げる。

アピールポイント 紙トレーを使用し、プラスチック削減を啓蒙。商品販売中は、レールポップ、スイングポップ、ポスター等で店内を装飾し、海ゼロウィークであることを訪れた人わかるよう強調した。

効果 販売店舗数：約200店舗
販売個数：1万2000個

大村湾海洋ごみ調査



概要 大村湾の漂流ごみを船上から目視で調査。大村湾の漂流ごみの実態を把握し、発信する。

目的 街ごみから流れたごみが滞留しやすい、超閉鎖性海域である大村湾のごみの状況を調査し、その実態について広く知ってもらう

アピールポイント 長崎大学清水教授監修のもと調査を行った。過去同様の調査を五島灘で行った際のデータと比較することで、大村湾の特徴を捉えることができた

効果 調査体験参加者：11名（小学生）
ごみの分布密度：6.63個/km²

海洋ごみから考える展



概要 長崎市科学館とコラボし、大村湾海洋ごみ調査の結果をはじめとした、海洋ごみにまつわる様々な展示を行う企画展。

目的 大村湾をはじめとする長崎県の海のごみ問題について知ってもらい、大村湾周辺に住む方に対し、超閉鎖性海域だからこそ、地域の努力が海を守ることに繋がることを知ってもらい、自分ごと化してもらうきっかけを作ること

アピールポイント 小学生、ファミリーなどが利用する長崎市科学館で約2か月間と長期で行う企画。アップサイクルの取り組みの展示や、海とみを使った体験など、様々な要素を盛り込んでいる。

効果 11月25日（土）～のため、来場者数は後日差し替え。

海ごみゼロウィーク



ごみ拾い参加人数 22,366人 **箇所数** 19箇所

アピールポイント 県内各地で企業・自治体と連携して清掃活動を行うことができた。自治体の広報紙など、他媒体でも取り上げられた。

メディア露出



メディア露出本数 18本

アピールポイント テレビ長崎の番組ほか、長崎新聞、読売新聞(デジタル)、長崎放送（TBS系列）の番組など他媒体でも露出された。



2023年度の課題とこれからの展望

23年度実施した海洋ごみ調査は大村湾の浮遊ごみに限定していた為に、限定的なデータしか得られなかった。身近な場所で起きている問題をより明らかにするために、様々な方法で調査を行い、その結果を効果的に訴求し、行動変容に繋げたい。また、ごみ問題に対してアクションを起こしたいが起こせない層に継続的に活動場所を提供し、能動的人材のネットワーク化を図る。